



ともに伸びる馬室っ子 ~あせがきらきら馬室っ子~

令和6年2月1日

2月号

鴻巣市立馬室小学校
電話 541-0578

馬室小だより



今つたえたいこと ~ 自分の命は自分で守る意識を ~

校長 齋地 満

今年は、4年に1度のうるう年です。地球は太陽の周りを365日と6時間かけて回るため、「6時間×4年」の24時間分を4年に1度、2月29日に調整することになっています。それでも調整が必要なようで、「西暦年が100で割り切れるが400では割り切れない年」は、うるう年としないそうです。それに該当する一番近い年が、2100年となります。どのような時代となっているのでしょうか。

さて、1月17日(水)に避難訓練を行いました。今回の避難訓練では、子どもたちに明確な日時を教えず、2時間目休みに大きな地震が発生したことを想定して実施しました。校庭で遊んでいた児童は、建物から離れて中央に集まり、態勢を低くして待機する。校舎内にいた児童は、近い教室の机の下に避難する。その後、近くにいる先生の指示に従って校庭へ移動し、クラスごとの点呼となりました。子どもたちや教職員の様子から、これまで以上に真剣に取り組むことができたと感じています。私からは、「災害はいつ起こるかわかりません。先生方がいる時は、皆さんを全力で守ります。しかし、先生がいない時もあります。だからこそ、『自分の命は自分で守る』という意識をもってほしい。」という話をしました。

東日本大震災で、津波に襲われ児童や教職員の尊い命が犠牲となった宮城県石巻市の大川小学校を慰霊したことがあります。想定を超える8mの津波により、校舎の窓や壁がなくなり、机や備品が瓦礫(がれき)となった教室を見ました。その光景は、想像を絶するものであり、恐ろしさと悲しさが伝わってきました。また、地域の避難所となっていたそうですが、周囲に集落の跡形はなく、ただ荒れ地が広がっている様子に愕然としました。

右の言葉は、宮城県女川町の子どもたちの作文などが綴られた「まげねっちゃ」(青志社)に収められていたものです。強く心に残り、「自分の命は、自分で守る」を避難訓練で必ず伝えるようになりました。能登半島地震の報道等で、ご家庭でも様々なお話をされていると思います。日ごろから、安全で正しい判断を心掛ければ、危険を察知して回避する能力が身に付きます。それは、交通安全にも繋がります。

終わりに、能登半島地震で被災された方々に、一刻も早く安心な日々が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

今つたえたいこと

女川二小 6年 平塚三奈

「今」伝えたいことは

このさいがいで思ったこと

自分のたった1つの命を

大切にすること!

この世にいらぬ命はない!

いつもえがおでいること!

それだけはわすれないで!